

復興道路の整備効果 岩手県で年間540億円

—一般財団法人岩手経済研究所が試算—

県土整備企画室・道路建設課

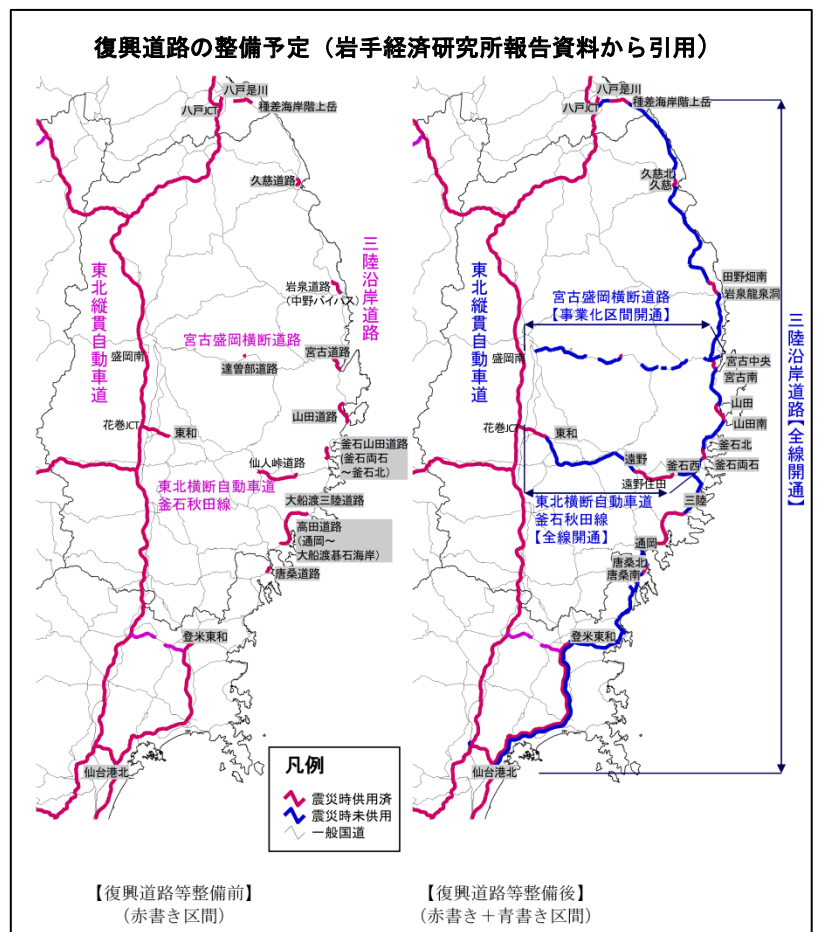
一般財団法人岩手経済研究所は、復興道路の整備に伴う岩手県や全国への経済波及効果を分析し、**県内では年間当たり540億円の経済効果**が見込まれるという試算結果を発表しました。

復興道路として整備が進んでいる**三陸沿岸道路**（宮城県仙台港北IC～青森県八戸JCT）や、**宮古盛岡横断道路**（宮古～盛岡）、**東北横断自動車道釜石秋田線**（釜石JCT～花巻JCT）が完成することで、移動時間の大幅な短縮が図られます。

これにより、三陸の海産物を内陸部や首都圏に運びやすくなったり、県内外からの観光客が来やすくなったりすることで、三陸を中心とする地域の生産・消費が増加し、さらに、経済活動が活発になることで、雇用の増加や所得の向上、さらなる経済の拡大へと波及していくことが見込まれます。

研究所では、整備前と比べた時短効果を、**仙台港から八戸まで3時間10分、宮古市から盛岡市まで30分、釜石市から花巻市まで25分の時間短縮**と想定し、「空間応用一般均衡モデル」という経済モデルに当てはめて、道路整備に伴う経済波及効果を分析しました。その結果、**岩手県内では年間540億円の総生産増加（県内総生産の1.1%に相当）、東北では年間760億円、全国では1,090億円といった経済波及効果**が算出されました。

復興道路の完成に向けては、国による開通見通しが新たに示され、着実に整備が進んでいるところですが、引き続き、早期全線開通に向けて、国や市町村と連携して取り組んでいきます。



※詳細は、岩手経済研究所による報告資料を参照してください。（H28.11.29 復興道路の整備に伴う経済波及効果について

http://www.iwatekeizai.org/wp-content/uploads/pr/pr_revivalroad_20161129.pdf